

ニホンウナギ保全方策 検討調査について



平成26年9月3日
環境省自然環境局 野生生物課

絶滅のおそれが増大する野生生物への対策

1. 基礎資料の作成・普及啓発

レッドリスト・レッドデータブック

※法的規制等の強制力を伴うものではなく、絶滅のおそれのある野生生物に関する理解を広めることを目的としたもの。



2. 法律による規制

「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」

保護対象種の指定(国内希少野生動植物種など)

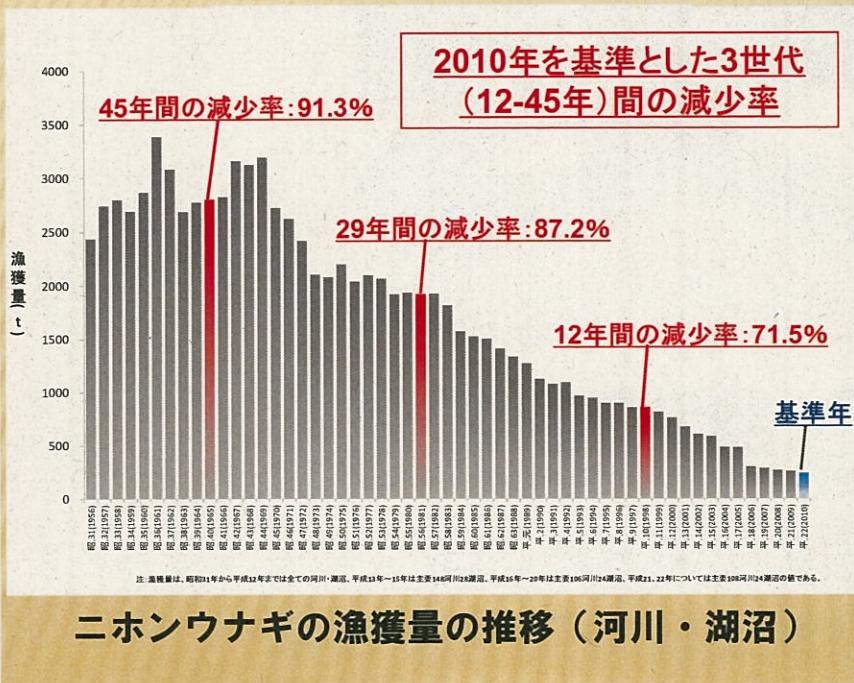
捕獲の禁止、流通の禁止、保護増殖、生息地等保護区

3. 保全方針の作成・公表

例: 猛禽類保護の進め方、サシバの保護の進め方、
コアジサシ繁殖地の保全・配慮指針

環境省レッドリストにおけるニホンウナギの評価

平成25年2月 第4次レッドリスト
DD(情報不足) ⇒ 絶滅危惧IB類



○ニホンウナギの成熟年齢(繁殖可能な年齢)は4~15年と考えられている。

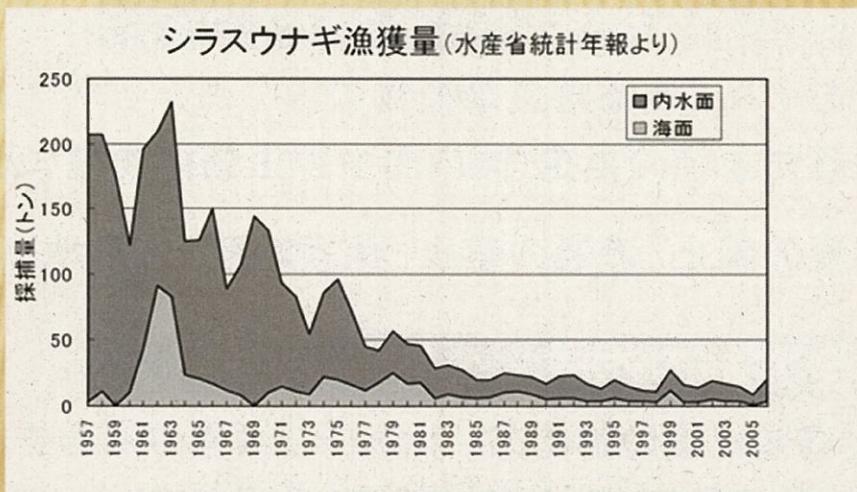
○河川に遡上し、河川感潮域に生息する履歴がある個体が、産卵に大きく寄与することが明らかになつたため、河川での漁獲量の変化から個体数変化の推定が可能となつた。

○環境省レッドリストの判定基準の一つでは、3世代(12~45年)の減少率で、ランクを決定しており、ニホンウナギのそれは72~92%となる。

○3世代の減少率が50%以上の場合は、絶滅危惧IB類(EN)と判定。

ニホンウナギの減少要因

- 海洋環境の変化
- 漁獲(河口におけるシラスウナギ、河川※における黄ウナギ、銀ウナギ)
- 河川・沿岸環境の変化



※…湖沼、用水路、ため池等水系全般を含む。以下同じ。⁴

環境省の方針

- ①レッドリストにおける評価を通じた社会への警鐘・保護意識の醸成・取組促進
- ②特に、水産庁、都道府県、漁業関係者等による漁業資源回復に向けた国内・国際的な取組の促進を期待
- ③ニホンウナギの生息環境調査

平成26年6月12日にIUCN
レッドリスト改訂
→絶滅危惧 I B類へ

※汽水～淡水域における生息環境を明らかにし、その保全や再生の方策を検討、ガイドラインとしてとりまとめ
※ニホンウナギを良好な自然環境の指標と考え、生物多様性の向上を目指す

5

ニホンウナギ保全方策検討調査

全国のニホンウナギの分布



水系内のニホンウナギの分布
生息環境の類型化

天然ウナギの
自然分布を把握

マイクロハビタット
(微小生息域)の利用

ニホンウナギを
取り巻く社会環境に
に関する情報収集
(関係主体の認識・取組)

好適な生息環境の条件分析



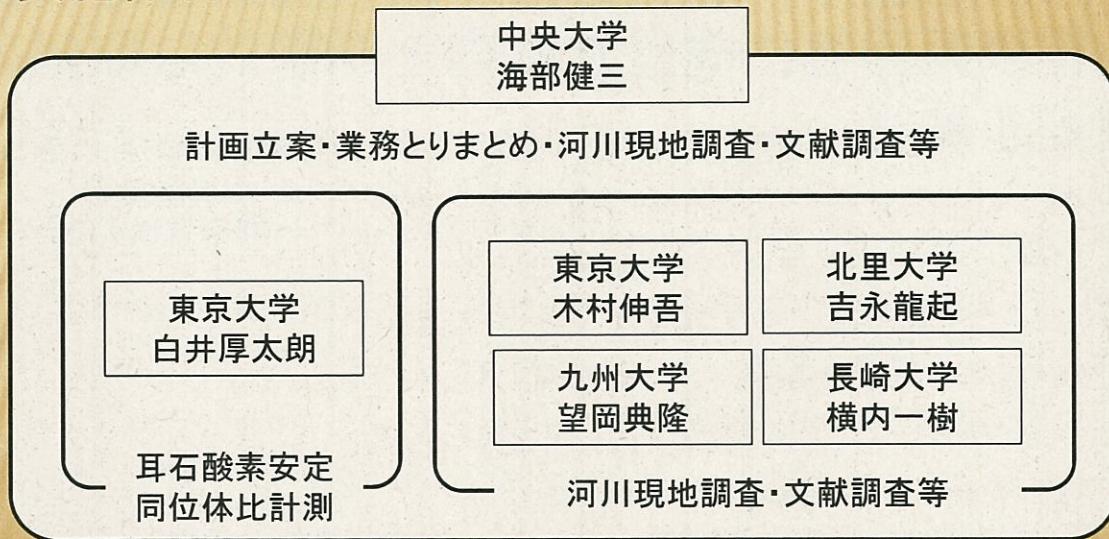
生息環境の保全・再生のための方策策定

6

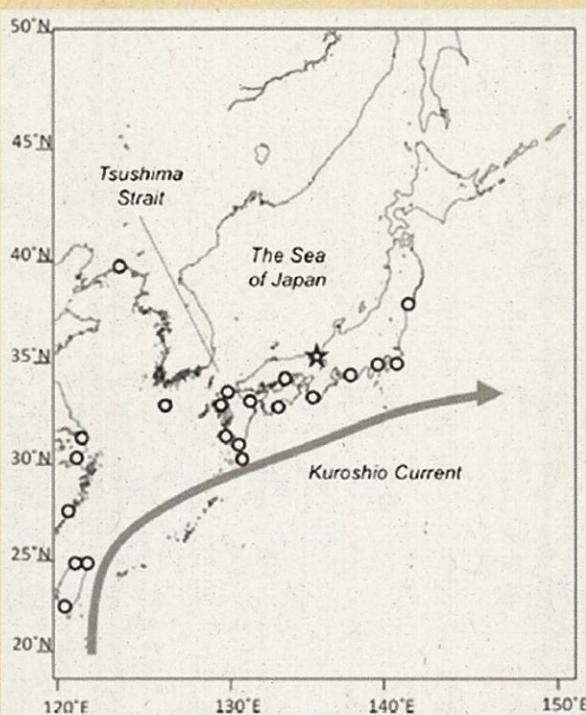
平成26年度調査内容

平成26年度ニホンウナギ保全方策検討委託業務
委託先：学校法人 中央大学

＜実施体制＞



全国のニホンウナギの分布（自然分布）



ニホンウナギ自然分布域図のモデル
(Kaifu et al. 印刷中を改変)

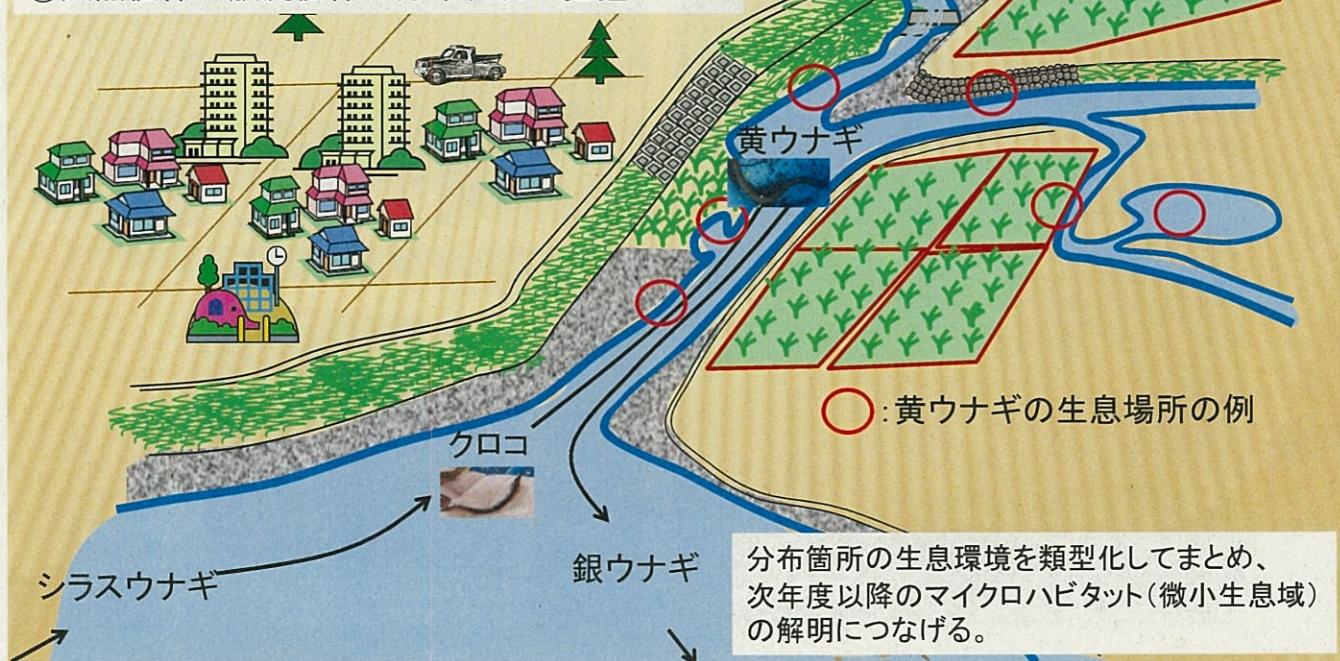
- 天然加入個体の自然分布（地理的分布）は未だ明らかになっていない。
 - これを明らかにすることにより、保全努力を傾けるべき水系等が明らかになる。
 - 特に、東北・日本海の分布域縁辺部での天然加入の確認を行うことで、その北限を明らかにする。
- ※天然加入個体／放流個体の別は、耳石の分析で明らかにする。

←シラスウナギの加入が確認された河川(○)と、確認されなかった河川(☆)を河口の位置で示した図

水系内のニホンウナギの分布

天然ウナギの遡上範囲とそれを規定する要因

- ①対象とする水系全体の河川形態型
- ②水系における河川構造物の位置と内容の把握
- ③天然個体／放流個体の分布状況の把握



調査対象水系

旭川・高梁川・吉井川水系

岡山県

放流実施

西郷川水系

福岡県

放流実施されていない

川棚川水系

長崎県

放流実施されていない

利根川水系

茨城県・千葉県

放流実施

酒匂川水系

神奈川県

放流実施

予備調査実施の様子



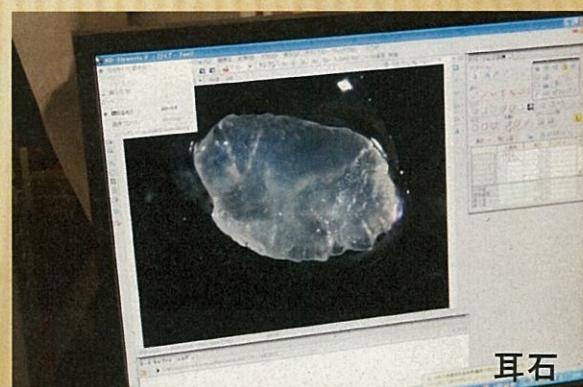
酒匂川水系



採集されたニホンウナギ



西郷川水系



耳石

今後の予定

- ✖ 調査対象河川における現地調査を今年の10月頃まで実施。本年度内に、水系内ニホンウナギの分布等まで明らかにしたい。
- ✖ 次年度には、マイクロハビタットの利用に関する調査（※）を本格化し、
- ✖ さらに平成28年度以降、生息環境の保全・再生のためのガイドラインの作成（有識者による検討会の実施）を目指したい。

※マイクロハビタットの解説に向けた情報収集

①生息場所の河口からの距離、②塩分、③底質の状況、④流速、⑤川岸の状況（護岸の場合その種類）、⑥植生、⑦食性（生物相）、⑧水質など